

第58回 長野県手をつなぐ育成会 大会アピール

人が集い、人と人が触れ合う機会を奪った新型コロナウイルス感染症、その猛威は秋口に入り小康状態になったとはいえ、未だ終息の気配は見えず、新たな感染爆発が危惧されています。私たち一人ひとりが「感染しない」「感染させない」行動を肝に銘じて、一日も早く以前のよう互いに親しく触れ合える日常が来ることを、切に願うばかりです。

このような社会情勢の今だからこそ、人として、誰もが持つ人権が等しく尊重され、互いの存在を受け入れ、互いを思いやる地域、誰一人として取り残されない寛容な社会が、今まさに求められています。

生まれた地域で自分らしく生きる、何か難しいことがあるのでしょうか。人として、当たり前のことではないでしょうか。地域で暮らす誰もが、ちよっとした迷惑は、お互いに掛けているのが地域ではないでしょうか。だからこそ、隣近所が互いを思いやる「お互い様」と「お陰様」という言葉があるのだと思います。今こそ、互いを理解し合える寛容な地域社会が求められています。

私たち育成会は、物言えぬ我が子の代弁者として、人として尊厳のある人生の実現を目指して活動して来ましたが、まだまだ道半ばです。我が子らの豊かな人生の実現の為、思いを新たに共有し、大会宣言を發します。

- 一、地域福祉の中での育成会の役割とその意義を認識しよう。
- 二、地域で暮らす高齢知的障害者を取り巻く仕組みと問題点をよく知ろう。
- 三、みんなが暮らす地域社会から障害者差別をなくそう。

令和三年十月十六日

第58回 長野県手をつなぐ育成会 大会